

支え合いのまち 稲毛

稲毛区地域福祉計画推進協議会だより No. 15

平成 25 年 11 月 11 日発行

編集：稲毛区地域福祉計画推進協議会事務局

稲毛区穴川 4-12-4（稲毛保健福祉センター内）

TEL：284-6282 FAX：284-6193

稲毛区地域福祉計画重点項目

「災害時に対応した地域住民の研鑽を図る」

稲毛区地域福祉計画の重点項目「災害時に対応した地域住民の研鑽を図る」をご存知ですか。

災害発生時には、住民自らが、生き残るための最低限のことを、自分たちで最優先に行っていく必要があります。住民一人ひとりが災害に対する危機意識を持つことが重要です。

ここでは、「草野水のみち（都市下水路 通称：草野水路）」の水害により動き出した住民運動について、また千葉市が推し進める「避難所運営委員会」について、それぞれご紹介いたします。

「自分らの町を自分らが築く」

草野水路治水問題対策会議 事務局担当
青木 正敏（稲毛3丁目町内会会長）

私たちの「草野水路治水問題対策会議」は、2010年9月8日の台風による草野水路の氾濫で大きな水害を被った体験から発足しました。流域周辺の11の町内自治会で立ち上げ、毎月の例会では現状の把握、要因の究明、そして短期・中期・長期の対策を練り上げて、それを千葉市の担当課職員に働きかけて来ました。

これまでに実現できた対策として、(1)草野水路に3か所の水位計と警報装置を設置(2)草野水門の自動閉鎖装置のシステム化等があります。この10月から来年3月にかけて、京成線ガードから稲毛小学校までの区間、護岸を嵩上げし、国道14号手前の護岸壁の改良と稲毛6号橋の嵩上げが計画進行中です。

活動を通して確信したことは、自分らの地域・町を自分らが先頭に立って築いてゆくことの重要性でした。



稲毛3丁目 福有氏撮影。左下手に千葉市立稲毛小学校体育館があります。2010年9月8日は体育館が床上浸水（避難所です！）。この写真撮影は、氾濫した1年前の8月9日。大潮と大雨が重なるとこのように濁流と化します。



【参考】ほぼ同位置の反対側（小学校敷地）より撮影した通常の水位状況です。

避難所運営委員会

市では今、避難所運営委員会の設立を進めています。

問合せ：稲毛区 地域振興課 暮らし安心室【☎ 043-284-6107】

大災害等が起こると、近くの学校や公民館は避難してきた人たちが宿泊する避難所になります。この委員会は、ふだんから地域のキズナを深め、いざという時にスムーズに避難所をひらき、生活できることを目指して設立するものです。

委員会を設立するには、まず地域の代表者、施設管理者（学校長など）、市職員などが集まり、設立準備会議を開くことから始まります。稲毛区で避難所に指定された施設は全部で42か所です。このうち本年10月1日までに委員会のできた避難所は、次の12か所です。

緑町小・緑町中・黒砂公民館・都賀小・都賀中・千草台東小・都賀公民館・あやめ台小・柏台小・山王小・山王公民館・長沼原勤労市民プラザ



稲毛区地域福祉計画の推進に関するアンケート調査結果

平成 25 年 7 月実施

平成 25 年 7 月、稲毛保健福祉センター高齢障害支援課より、区内 185 町内自治会及び 11 地区部会を対象に標記アンケート調査を行いました。

当該計画は、全 34 項目で構成されており、それぞれの項目に対し、回答をいただきました。ここでは、そのうちの 6 つの重点項目のアンケート結果について、掲載させていただきます。



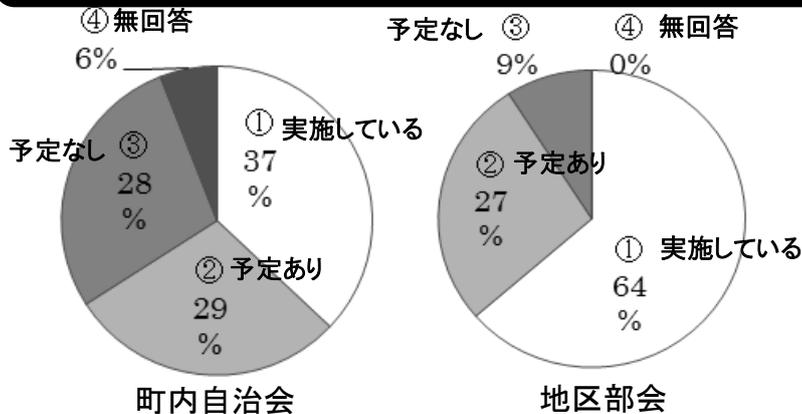
- 185 町内自治会にアンケートを送付し、135 町内自治会から回答（回答率約 73%）。
- 11 地区部会にアンケートを送付し、11 地区部会から回答（回答率 100%）。

図表中の番号

- ①：実施している
- ②：実施していないが今後取り組む予定
- ③：実施していないし今後取り組む予定なし
- ④：無回答



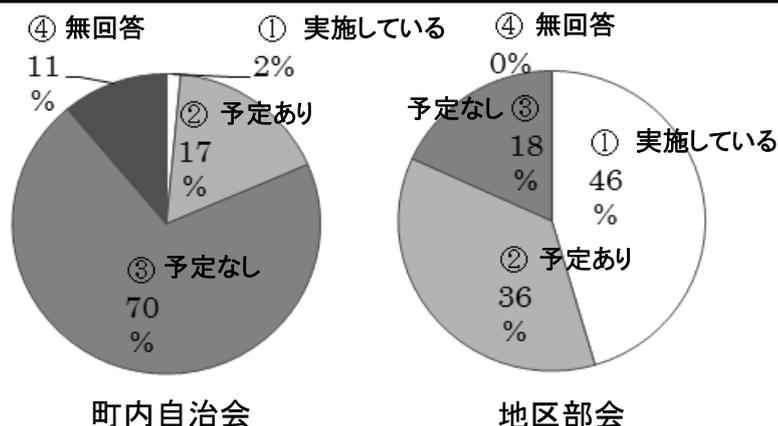
【重点項目 1】 地域で活動している人・組織同士との連携・協力



〈たとえば・・・〉

- ・地域で活躍する人・組織が住民情報をプライバシーに十分に配慮しながら共有し、各地域の実情にあった形で連携・協力し、「遠くの親戚より近くで生活する身近な人同士が支え合えるより良い地域」をめざします。
- ・人、組織が行っている活動や役割を地域の人に知らせます。
- ・市や専門機関とも連携・協力して行います。

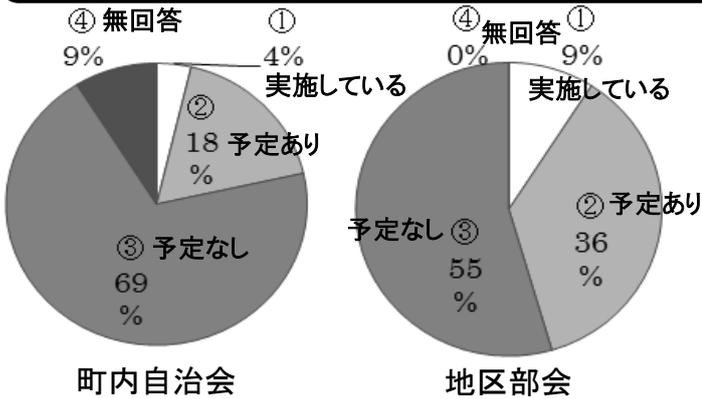
【重点項目 2】 ボランティアの人材育成



〈たとえば・・・〉

- ・地域活動を行うのに、ボランティアの存在は欠かせません。このため、講座を開催してボランティアを育成します。
- ・地域の方に各種ボランティア活動への参加を促し、体験を通して、ボランティアの育成に努めます。
- ・子ども達を主な対象に、学校でもボランティアの人材育成を進めます。

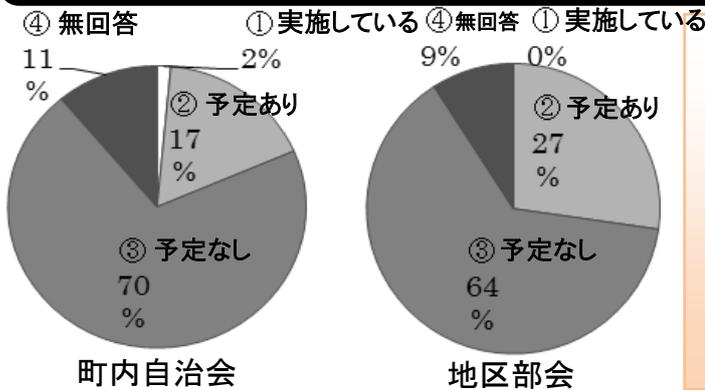
【重点項目 3】 活動の中核となれる人材の発掘



〈たとえば・・・〉

- 区内に居住する各種の福祉関係の仕事の経験者や、ことぶき大学校などの生涯大学の学生及び修了者、ボランティアなどから希望者を募り、登録（人材バンク）し、人材を発掘します。

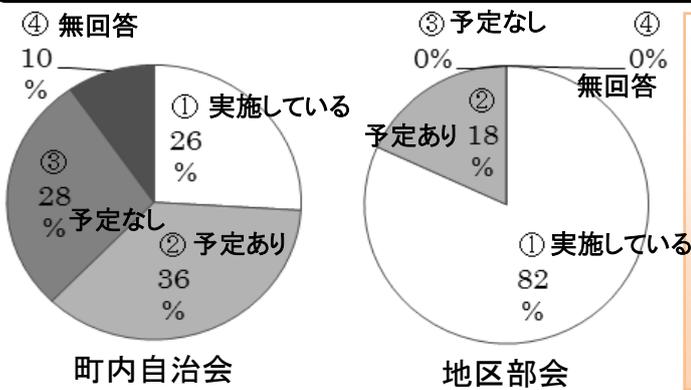
【重点項目 4】 コーディネート組織の連携



〈たとえば・・・〉

- ・コーディネート組織が機能していくためには、地域で活動している人や組織、大学などの協力・連携が不可欠です。賛同していただけたらと少しずつネットワークを拡げていきます。
- ・最終的には、中学校単位くらいごとにコーディネート組織が立ち上がり、毎日活動しているような地域をめざします。
- ・相談や支援に対しては、プライバシーの問題や組織の信頼性、トラブル時の対応、運営方法など、課題もあります。実施にあたっては、慎重に検討しながら進めていきます。

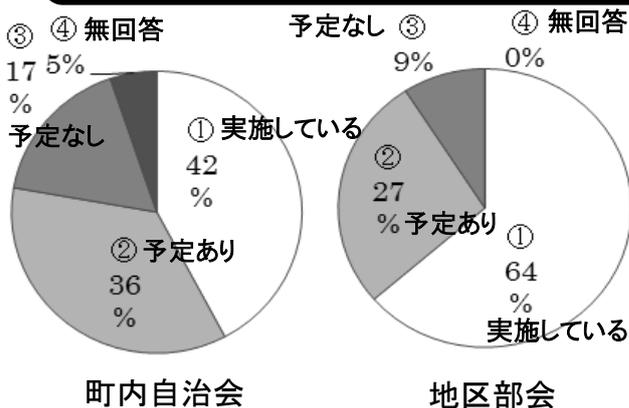
【重点項目 5】 安心カードの作成と活用



〈たとえば・・・〉

- ・社会福祉協議会地区部会や民生委員・児童委員が中心となって、氏名や住所、緊急時の連絡先、地域の民生委員・児童委員などを記載し、緊急時など必要な情報として役立つ安心カードを地域に住む高齢者や障害者などに対し、配布します。
- ・在宅中のときは玄関などの発見しやすい場所に、外出するときにはそれを持って行ってもらい、いざというときに役立つような対応ができるようにします。
- ・地域に安心カードについて周知し、有効に活用できるように工夫します。

【重点項目 6】 災害時に対応した地域住民の研鑽を図る



〈たとえば・・・〉

- ・町内自治会や要支援者団体等で消防署の職員等の災害時対応の専門家呼んで、災害が起きたときの対応、日頃の備え、避難所生活を送るうえで、障害者や赤ちゃんがいる方など特別な配慮を要する人に対する知識などについて講習を受けます。また、お互いの意見交換の場としても行っていきます。
- ・避難訓練を行いますが、参加者が役員や一部の人のみでなく、支援を必要とする人が進んで参加できる地域全体としての意識改革が必要です。そのため、普段から近隣との情報交換や積極的な交流が大切です。
- ・現在、市全体で取り組んでいる自主防災組織についても進めていくことも必要です。要支援者団体と市などによる話し合いの場をつくり、避難場所のバリアフリー化、車椅子用トイレ、授乳場所の確保等要支援者にとって必要不可欠なものに対することについて検討をしていきます。

支え合いのまち 稲毛

稲毛区地域福祉計画推進協議会だより No. 15 【平成 25 年 11 月 11 日発行】
 ～ 次回発行は26年3月の予定です ～

－ 平成 25 年度稲毛区地域福祉計画推進協議会開催報告 －

今年度新たに取り組む2つの重点項目

- 活動の中核となれる人材の発掘 〈第一分科会〉
- 災害時に対応した地域住民の研鑽を図る 〈第二分科会〉



本会議【25年6月25日(火)】



第一分科会【25年10月29日(火)】



今年度第1回目の稲毛区地域福祉計画推進協議会(以下「区推進協」という。)が、6月25日(火)に稲毛保健福祉センターで開催されました。

今年度から新たに「活動の中核となれる人材の発掘(第一分科会)」「災害時に対応した地域住民の研鑽を図る(第二分科会)」の2つの重点項目について、それぞれの分科会に分かれ、参加者同士の意見交換が行われました。

第一分科会では人材発掘の難しさ、慢性的な担い手不足の現状について、第二分科会では災害に対する個々の危機意識をいかに高めるかなどが話し合われ、その後の本会議において各分科会のリーダーから報告がありました。いずれも難題ではあるものの、各地域の実情に応じ進めていくことが大切である等の意見が交わされました。

第2回区推進協は、10月29日(火)に稲毛保健福祉センターで開催されました。

本会議前に各分科会が開催され、第一分科会では、活動の中核となれる人材発掘の必要は感じながらも現在、地域で活動にあたっている担い手の方々の「チームワーク」を崩してまで発掘する必要はあるのか、人材発掘の機会はあるものか、どこまで活動に関わってもらおうのか、活動周知への工夫も必要ではないかななどの議論となりました。

第二分科会では、住民一人ひとりの災害に対する危機意識を高めるには、若い方が参加する地域行事の中で何度となく防災について触れ、周知すること、先の稲毛区における水害発生を受け、自分の住む地域環境を知ることが大切であり、災害に対してどんな備えをしておくべきかを日頃から考えておく必要がある等の意見が交わされ、各分科会のリーダーより、本会議の中でそれぞれ報告がありました。

－編集コラム－

台風26号は心配のとおり、多くの災害を残して晩秋を駆け抜けて、稲毛区では床上浸水8棟、床下浸水は93棟に及びました。公助、共助、自助を再考察する機会となりました。

今号に掲載されました草野水路周辺の水害に悩む町内自治会の皆様は、千葉市当局と積極的に話し合いを続けて、解決策を具体化する努力をしております。災害の解決の在り方として評価も大きい活動として見守っております。

